

平成 25 年度業務実績 小項目評価(案)一覧表

項目	頁	法人 自己 評価	委員会 評価 (案)	前回会議での主な意見、論点	評価結果報告書コメント(案)	H24 法人 自己 評価	H24 委員 会 評価
第 1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	—	—	—			—	—
1 市立病院として担うべき医療	—	—	—			—	—
(1) 救急医療(重点ウエイト項目) [法人の主な取組内容] ・特に重症外傷等外因性疾患の重症患者を積極的に受け入れ、重症患者数を増加させた。 ・新病院での救命救急センター開設に向け、診療科の枠を越えた円滑な救急受入れ体制を構築するため救急センターを設置した。 ・救急医 1 人、脳血管内治療専門医 1 人、トリアージ看護師 2 人の配置など救急医療の提供体制を強化している。 ・日本でも数少ない日本救急医学会指導医指定施設の指定を受けることができた。	7	5		<p>○平成 25 年度の評価委員会で意見があった救命救急センターの設置に向けての救急の質については、外傷患者の増や緊急手術の増などからも質的向上に取り組んでいると言える。</p> <p>○救急搬送からの入院率は、一般的な 2 次救急病院が 50%前後であることを考えると、少し低い感じがする。良い悪いではなく、比較的軽症の患者も含め、広く救急患者の受け入れを行っている印象である。</p> <p>○救急応需率(65.0%)は、2 次救急病院でも 70%程度の場合が多く、軽症患者も救急搬送されてくる現状を考えると、よくやっていると思う。</p> <p>○全ての 2 次救急患者が、堺市 2 次医療圏で完結することが望ましい。</p> <p>○救急患者数のみでなく、救急の質も含め決定される D P C 機能係数の救急係数が上昇していることは、救急の質も向上していると言える。</p>	救急外来等の課題に対して多職種で検討を行う救急センターや毎日の病床を一元的に管理する病床管理センターの開設など救急医療体制の充実に努めている。 特に、新病院での救命救急センターの設置や地域での役割分担を踏まえ、重症外傷等外因性疾患(股関節大腿近位骨折、損傷等)患者の増や緊急手術が増加するなど、重症な救急患者を積極的に受け入れるとともに、救急医学の教育研究が可能な施設であり各種の救急患者を診察していることが認められ日本救急医学会指導医指定施設に指定された。 これらの取り組みから地域のセーフティーネットの確保に大きな役割を果たしていると言える。	5	4
(2) 小児医療・小児救急医療・周産期医療	13	4	4		小児の救急搬送(2 次救急)や初期診療施設からの 2 次後送を積極的に受け入れており、地域における役割を果たしている。また、小児医療を充実するため小児専門疾患に対応する体制強化に取り組んでいる。 周産期医療においては、大阪府母子保健総合医療センターなど他の医療機関との役割分担や連携につい	4	3

項目	頁	法人自己評価	委員会評価(案)	前回会議での主な意見、論点	評価結果報告書コメント(案)	H24法人自己評価	H24委員会評価
					て協議・考慮し、堺病院が担う役割の明確化に取り組み検討を行っている。		
(3) 感染症医療	16	3	3			3	3
(4) 災害その他緊急時の医療	18	3	3			3	3
2 高度専門医療の提供	—	—	—			—	—
(1) がん・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病への対応 <u>(重点ウエイト項目)</u> [法人の主な取組内容] ・内視鏡手術や鏡視下手術治療の適応を拡大するなど、治療の高度化を進めた。 ・がんについては、手術のほか、化学療法や放射線治療、緩和ケアなど総合的な治療を提供。 ・他病院との連携強化、スタッフの専門資格の取得促進、がん相談支援センターの開設を進めた。 ・国の地域がん診療連携拠点病院の指定申請。 ・脳卒中については、脳血管内治療の拡大、急性心筋梗塞については、365日24時間の心臓カテーテルにも対応。心臓リハビリは多職種による指導やサポート糖尿病については、糖尿病療養指導士の資格取得を促進した。	20	4		○緩和ケアはよく頑張っていると思う。しかし、国が進めている病床の再編成を考えた場合、今後は病病間のコーディネートをもう少し積極的に進めた方がよいのではないかと。 ○地域の歯科医との連携により入院患者の手術期口腔ケアを実施し、件数を大きく増やしたことは、感染のリスクが大きく下がるので、大変、有意義な取り組みである。 ○がん相談を看護師とソーシャルワーカーで行うことで、医療面だけでなく患者の社会生活的な相談にも対応しており、十分な相談体制をとっている。	がんへの対応については、大阪府がん診療拠点病院として、がんの専門医師、専門薬剤師、専門看護師、相談支援専門員など、専門性が高い多職種のスタッフが合同で治療方針を決定し、効果的な治療を実施している。特に、鏡視下手術や外来化学療法など患者の体への負担が少ない低侵襲治療を推進している。地域の医療機関との連携を図るため地域医療連携クリニカルパスを適用する症例やがん診療地域連携クリニカルパス連携医(診療所)の増加に努めている。 脳卒中への対応については、脳卒中患者の受入れ拡大を図り、経皮的脳血管内手術件数や頸動脈ステント手術件数の増に取り組んでおり、急性心筋梗塞への対応については、ハートコールによる対応疾患や緊急対応体制の充実に努めている。	3	3
(2) 高度で専門性の高い医療の提供 [法人の主な取組内容] ・総手術件数の増、全身麻酔の増。	27	5		○内視鏡手術など、低侵襲な治療を積極的に進めている。 ○手術における合併症の発症はどうか。(病院回答) 特に増加していない。	手術件数、特に高度で専門性が高い手術となる全身麻酔による手術件数が増加するとともに、積極的に、腹腔鏡や内視鏡など鏡視下手術の推進に努めている。また、自己末梢血管細胞移植や眼科での角膜移植	3	3

項目	頁	法人 自己 評価	委員会 評価 (案)	前回会議での主な意見、論点	評価結果報告書コメント(案)	H24 法人 自己 評価	H24 委員 会 評価
・鏡視下手術などの低侵襲手術の拡充。					を実施するなど高度専門医療を担う中核病院として質の高い医療提供を実施している。		
(3) 総合的な診療とチーム医療の推進	31	4	4		新たな多職種によるチームを設置し、全身麻酔患者などに対し、術前説明や術後回診など周術期患者を包括的に支援し、診療体制の充実に取り組んでいる。また、チーム医療活動を病院方針とより合致させる取り組みや医療技術員を増員し、医療チームへの参画を促したことにより、チーム医療の活性化や充実に努めた。	3	3
(4) 専門性及び医療技術の向上	34	4	4		新たな手技や知識を習得し、医療の高度専門化を図るため、学会参加等の研究研修予算の増額を行った。また、研究論文などにおいて賞を受賞するなど質の高い研究発表がなされており、医療スタッフの専門性の向上に取り組んでいる。	4	4
(5) 臨床研究及び治験の推進	36	3	3			3	3
3 安全・安心で信頼される医療の提供	—	—	—			—	—
(1) 医療安全対策等の徹底	38	3	3			3	3
(2) 患者の視点に立った医療の実践	42	3	3			3	3
(3) 医療の標準化と診療情報の分析による質の改善及び向上	45	3	3			3	3
(4) 法令・行動規範の遵守(コンプライアンス)	48	3	3			3	3
4 患者・市民サービスの向上	—	—	—			—	—
(1) 患者サービスの向上	51	3	3			3	3
(2) 誰もが利用しやすい病院づくり	55	3	3			3	3

項目	頁	法人 自己 評価	委員会 評価 (案)	前回会議での主な意見、論点	評価結果報告書コメント(案)	H24 法人 自己 評価	H24 委員 会 評価
(3) 待ち時間の改善	57	3	3			3	3
(4) 職員の接遇向上	59	3	3			3	3
5 地域医療への貢献	—	—	—			—	—
(1) 地域医療機関との連携推進	61	4	4		地域の医療機関との連携強化を図るため地域医療担当の窓口業務の時間拡大や紹介患者の窓口の一本化、連携病院の訪問などを実施するとともに、登録医療機関の大幅な増に取り組んでいる。さらに、地域連携クリニカルパスのパス数及び適用患者数の増に取り組み、年々増加している。この結果、紹介率、逆紹介率ともに、目標を達成し、地域の医療機関との連携を推進している。	3	3
(2) 地域医療への貢献	64	4	4		開放型病床の利用促進を図り、また臨床病理検討会や臨床検討会など地域の医療従事者を交えた研修会を開催するなど、地域の医療水準の向上や診療内容の情報共有などに取り組んでいる。		
(3) 人材の育成	66	3	3			3	3
(4) 疾病予防の取組	68	3	3				
(5) 保健福祉行政等との連携	70	3	3			3	3
(6) 市民への保健医療情報の発信	73	4	4		市民公開講座を定例開催とし、開催回数を増やすとともに、病院ホームページにわかりやすく解説した医療情報のページを新設するなど、健康に関する普及啓発に取り組んでいる。	3	3
第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項	—	—	—			—	—
1 業務運営体制の構築	—	—	—			—	—

項目	頁	法人 自己 評価	委員会 評価 (案)	前回会議での主な意見、論点	評価結果報告書コメント(案)	H24 法人 自己 評価	H24 委員 会 評価
(1) 業務運営体制の構築	74	4	4		病院全体に拘わる重要事項については、理事会等で迅速な意思決定を行う一方、診療局、薬剤技術局、看護局、事務局それぞれで完結すべき業務については、4局長に予算と人事に関する調整を一元化することで、ガバナンスを強化し、運営権限の強化に取り組んでいる。	3	3
(2) 質の高い経営	75	4	4		経営幹部による各部門長への面接の実施など、各部門において病院方針に沿った目標管理、PDCAサイクルの定着を図り、理事長のリーダーシップのもと、自律的な運営に取り組んでいる。さらに、病院の現状把握、課題抽出を行うため、診療科別・各部門別原価計算の実施はもとより、DPCデータによる他病院とのベンチマーク分析の実施など、戦略的な病院経に取り組んでいる。	4	4
(3) 事務経営部門の強化	77	4	4		管理職の外部研修への派遣や、中間管理職等を対象にしたマネジメントセミナーを実施するなど経営企画機能を強化し、事務経営部門の強化に取り組んでいる。	4	4
(4) 業務改善に取り組む組織風土の醸成	78	4	4		ボトムアップによる業務改善を行うため職員からの提案を病院経営や業務運営に反映させる取り組みを行っている。予算施策提案制度の改善として提案期間の拡大などを実施している。また、積極的に投書やボランティアを通じ外部の意見を業務改善や患者サービスに結び付けるなど、業務改善が実行される組織風土の醸成に取り組んでいる。	4	4

項目	頁	法人 自己 評価	委員会 評価 (案)	前回会議での主な意見、論点	評価結果報告書コメント(案)	H24 法人 自己 評価	H24 委員 会 評価
2 優れた医療スタッフの確保	—	—	—			—	—
(1) 優れた医療スタッフの確保	80	4	4		専門性が高く、優れた医師や看護師などの医療スタッフを確保するため、これまでの方法に加え、ホームページでの公募や民間の医師紹介業者の活用、他県での説明会や試験を実施し、高度医療を提供する体制の充実に取り組んでいる。	3	3
(2) 教育研修の充実 〔法人の主な取組内容〕 ・ 医師及び看護師の資格手当制度を新設。 ・ 各局に人材育成予算を配分と増額した。 ・ 働きながら学べる勤務体制等の継続を実施。	84	4		○専門看護師、認定看護師の育成による資格取得やスキルアップ、モチベーション向上に、取り組んでいる。	高度医療の安定的・継続的な提供に必要な医療スタッフの専門性や医療技術の向上のため、資格取得による手当制度の創設や研究研修予算の増額など、資格取得への誘導や人材育成に積極的に取り組んでいる。また、賞を受賞する質の高い論文発表や研究発表が行われている。	3	3
3 やりがいを感じる病院づくり	—	—	—			—	—
(1) 意欲を引き出す人事給与制度の構築	88	3	3			3	3
(2) 職員のやりがいと満足度の向上	89	4	4		職種による適切な職務の役割分担を推進するとともに、仕事や職場に対する意識やニーズの把握、新たな取組みや実績を高めた職員などの表彰制度の創設など、職員のモチベーション向上に取り組んでいる。	3	3
(3) 働きやすい職場環境の整備	91	4	4		仕事と育児の両立のため院内保育所の開所や短時間勤務の活用、また全病棟で看護師の夜勤体系を2交替と3交替の混合体系の実施などワークライフバランスに配慮した職場環境の整備に取り組んでいる。	3	3
4 効率的・効果的な業務運営	—	—	—			—	—
(1) 組織・診療体制・人員配置の適切かつ弾力	93	3	3			3	3

項目	頁	法人 自己 評価	委員会 評価 (案)	前回会議での主な意見、論点	評価結果報告書コメント(案)	H24 法人 自己 評価	H24 委員 会 評価
的運用							
(2) 予算執行の弾力化	95	3	3				
(3) 医療資源の有効活用	96	4	4		各科ごとの責任病床を明確にする とともに3か月ごとに見直しを行 い、病床の有効活用に取り組み、重 症患者の受入れ体制の推進に努め ている。	3	3
5 外部評価等の活用	—	—	—			—	—
(1) 監査の活用	98	4	4		監事及び会計監査人の指摘に迅速 に対応することで効果的・効率的な 業務改善を実施するとともに、適正 な業務運営及び会計経理を行った。		
(2) 病院機能評価等の活用	99	3	3			3	3
(3) 市民意見の活用	100	3	3				
第3 財務内容の改善に関する事項	—	—	—			—	—
1 経常収支の黒字の達成 <u>(重点ウエイト項目)</u> 〔法人の主な取組内容〕 ・ 例月の業務状況、収支状況の速報値等から、 課題に対して迅速に対応した。 ・ 収支と業務のバランス比較により、さらなる 経営改善に繋げた。	101	5		○収益の増や費用の節減への取り組んだ結果、 2カ年連続で、目標を上回る経常黒字となっ た。	市立堺病院が地域で市立病院ある いは中核病院として役割を果たし 続けるためには、安定した経営基盤 の確立が重要である。今年度は、経 常的な経費が全て計上される中、診 療収入の増加などにより黒字を達 成している。経常収支は法人設立 後、2年連続で目標を上回る黒字と なるなど、安定的な経営基盤の確立 に向け、着実な前進がうかがえる。	5	4
2 収入の確保と費用の節減	—	—	—			—	—
(1) 収入の確保 〔法人の主な取組内容〕 ・ 効率的な病床管理による入院患者の確保 ・ 手術件数の増や高度専門医療の提供による診	103	5		○入院単価は昨年度と比較し増加している。今後 も増加する可能性があるのか、また他の同規模 病院と比較した場合、どの程度のレベルなの か、はっきりしない。 ○一概に診療単価が高いから経営的であるとい うのではなく、どの様な内容で単価が高いのか	新たに12の施設基準を取得したこ とや手術室の効率的な運用など による手術件数の大幅な増加、病床の 一元管理の徹底による病床利用率 の向上などにより、前年度より入院 収益が3.7億円、外来収益が2.2億	4	4

項目	頁	法人 自己 評価	委員会 評価 (案)	前回会議での主な意見、論点	評価結果報告書コメント(案)	H24 法人 自己 評価	H24 委員 会 評価
療単価の上昇 ・新たに12件の施設基準の取得 ・診療報酬請求事務の精度の向上 ・未収金の発生防止や早期回収策の実施				が重要である。堺病院の診療内容を考えると非常にいいレベルにある診療単価である。	円と大きな増収となっている。また、体制の充実を図り診療報酬請求事務の精度を高め請求漏れや請求査定減少に努め、増収に取り組んでいる。		
(2) 費用の節減 [法人の主な取組内容] ・新病院に向けた人員体制の強化・充実による給与増や高度専門医療の提供等に伴う材料費の増などにより医業費用は増加した。 ・後発医薬品の採用拡大や診療材料費の廉価同等品への切替え、値引さらに、交渉材料の在庫管理の強化と救急カート薬品の定数や手術室の運用を見直し、材料費の削減に努めた。 ・退職金制度の変更	107	4		○退職金制度変更に伴う退職給付費用の費用削減が大きい。 ○廉価同等品への切替えや値引き交渉等による診療材料費の削減の実績、金額ベースを示してほしい。 (病院回答) 通年ベースで200万円。	高度医療の提供の推進や患者増など増収を図るため費用の増があったものの、効果的かつ合理的な費用執行に努め、費用の節減に取り組んでいる。特に、退職金制度の変更を行い、今後、発生する退職金の抑制を行うとともに、今年度においても2億円以上の費用削減を実施した。	4	3
第5 その他業務運営に関する重要事項	—	—	—			—	—
1 わかりやすい情報の提供	—	—	—			—	—
(1) 積極的な広報	110	3	3				
(2) 適切な利用の啓発	112	3	3				
(3) 経営状況の情報提供	113	3	3			3	3
2 環境にやさしい病院づくり	114	3	3				
3 新病院整備の推進	—	—	—			—	—
(1) 確実な整備の推進	116	3	3			3	3
(2) 経費削減効果の確保	118	3	3			3	3
(3) 新病院の機能充実に向けた計画的な準備	119	3	3			3	3
(4) 救急医療のネットワークの構築	121	3	3				

項目	頁	法人 自己 評価	委員会 評価 (案)	前回会議での主な意見、論点	評価結果報告書コメント (案)	H24 法人 自己 評価	H24 委員 会 評価
(5) 救急病床からの転床・転院先の確保	123	4	4		急性期医療を提供する病院としての機能を発揮するため、地域の医療機関などとの連携強化により、急性期を脱した患者の受け入れ先の確保や、このことに伴った長期入院患者の退院促進に取り組んでいる。		